

特別記事

NAB Show 2025 速報

2025年4月6日～9日に米国ネバダ州ラスベガスのLas Vegas Convention Center (LVCC)において、世界最大の放送機器見本市、国際放送機器展「2025 NAB(National Associations of Broadcasters) Show」が開催された。

本年のNAB SHOWは102回目の開催となるが、昨年まで使用されていたCENTRAL HALLは現在改装中のため、WEST HALL・NORTH HALL・SOUTH HALLの3つのホールを使用して行われ、160か国からおよそ1,100社の出展社と5万5千人の登録参加者が集った模様である。

さて、日本では本年が放送開始100周年目であるが、アメリカでのテレビ放送は1939年4月にNBCがニューヨーク世界博覧会に合わせて定期的な開始し、CBSがこれに追隨して本格的に放送が開始された。

LVCCの広大な会場には、世界の経済情勢とは無縁で、世界中から集まった最新技術が所狭しと並び、会場内は賑わいを見せた。

また、一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会では、NAB Showに来訪した業界の有識者やジャーナリストと、日本のプロフェッショナルに向けて、NAB Show 2025の最新トレンドや世界的な業界動向をレポートする報告会を実施した。

以下に本年のNAB Showで注目の技術を列記する。

・放送機器におけるIP技術の普及と進化

IP技術はもはや基盤技術として確立されており、その上でクラウド、AIといった技術が当たり前のように組み合わせられている。

・AI技術の活用

会場の至る所でAI技術の活用が行われた。コンテンツの分析やタグ付けはもちろん、編集支援、グラフィック生成、データ分析など、その応用範囲は非常に多岐に渡っている。

以下は、本年のNAB ShowにおけるAI技術の活用事例である。

- ・スポーツ中継における選手のトラッキング、距離計測、データ表示、テロップ自動生成
- ・映像分析による自動ハイライト生成
- ・楽曲構造を維持したままの尺自動調整
- ・自動文字起こしや翻訳の機能などが追加された製品も多数出展。

・ソフトウェア化の加速とクラウド活用

従来の映像制作は専用のハードウェア機器を中心に構成されていたが、現在では多くのメーカーが製品の機能をソフトウェア化し、より柔軟で拡張性の高いソリューションを提供している。

また、クラウドネイティブなソリューションの展示も目立ち、コンテンツの管理から配信、制作、そして監視に至るまで、あらゆる領域でクラウドの活用が浸透している状況となっている。

・多様なフォーマットへの対応

SMPTE ST 2110、NDI、SRT、JPEG XSといったIP伝送プロトコルの活用が加速しており、異なるIPフォーマットが混在する環境への対応が、より一層重要視されている。

出典元資料▼

<https://technexus-blog.mbs.>

[jp/2025/04/2025-nab-show.html](https://www.inter-bee.com/ja/magazine/nab_show_report/)



NAB Show 現地レポート①

見えてきた、AIによるマネタイズ

(株)映像新聞社 論説委員

杉沼 浩司 氏

NAB Show 2025に登場した、機材、サービスを中心に報告します。IP化は当然で、大きな話題ではありませんでした。

一方、昨年登場が少なかったAIは、解析AI(深層学習AI)、生成AIとともに種々の製品やサービスのエンジンになっています。多くが「クリエイターの負担軽減」を目指しています。

また、「コンテンツの販路拡大」に即効性がある利用例もあり、ビジネス拡大に直結するAI像が固まりつつあります。面白くなってきました。

NAB Show 現地レポート②

脱放送か、迷走か。

NAB=全米放送協会が主催する“非放送化”

株式会社ワイズ・メディア

メディアストラテジスト 塚本 幹夫 氏

NABのレジェット会長は聴衆の前で、ローカル局所有権規制の撤廃、AMラジオチューナーの車載義務化法案、新地上波放送方式ATSC3.0の推進を強調。AIもローカル局にとっての活用メリットを説いた。

しかし会場には“放送”の文字はほとんど見当たらず、AIもプロダクション技術の進化や、コンテンツビジネスでの活用ばかりが目立つ結果に。そこには激変する米のメディア事情と放送業界の思惑のギャップが垣間見える。日本の3年後を占う上でも、NABショーから何を見出すべきか。現場の肌感覚をお伝えする。(配信修了)

出典元資料▼

https://www.inter-bee.com/ja/magazine/nab_show_report/



■■■■■■■ 出展社情報 ■■■■■■■■

(各社の出展リリースを基に掲載)

パナソニックエンターテインメント
& コミュニケーション(株)

放送局やライブイベントなどにおける映像制作へ向けた、優れたAV エコシステムを紹介。「Amplifying Innovation, Maximizing Our Impact」を全体テーマに5つのゾーンとKAIROOS タッチ&トライエリアで、最新の映像技術やワークフローと新製品ラインアップによるソリューションの展示、デモンストレーションを行った。

<5つのゾーン>

1. ライブスタジオゾーン (スポーツ中継スタジオ)

新製品の4K スタジオカメラAK-UCX100や4K インテグレートドカメラAW-UE150AW/AK、メモリーカード・カメラレコーダーAG-CX370、AG-CX20をはじめ、パナソニックのカメララインナップをスポーツ番組スタジオに模したセットで実際に撮影可能。また、大型LEDビジョン

の再撮も行えるので、特にモアレに強いAK-UCX100の性能も実際に確認できます。さらに開発中の4K マルチパーパスカメラの静展示も行います。加えて、フルサイズミラーレス一眼カメラ LUMIX DC-S1RM2 と、映像制作ワークフローサポートアプリ LUMIX Flowについての体感も可能であった。

2. ウィニングラインナップゾーン

講義室や会議室、放送局やイベント撮影などで活躍するパナソニックのリモートカメララインナップをこれまでの受賞歴と一緒に紹介。

3. ディスカバリーゾーン (LED / プレゼンテーションエリア)

放送局やライブイベントなどで活躍するソリューションを発見できるセミナー形式のプレゼンテーションを行った。スポーツやアリーナでのライブ映像制作に対応するST 2110 によるワークフローを紹介するなど、企業イベントの簡素化からライブイベントでの正確なカラーの調整など、将来を見据えた映像制作ワークフローのツールやヒント、ソリューションについて説明した。

4. プロダクションゾーン

オンライン講義やウェビナー、学会、講演会など様々なシーンでの映像撮影を、AIを活用することでさらに高品質・円滑にするソフトウェアプラットフォームMedia Production Suite の各プラグインのデモンストレーションを実施。高度なAI 技術の搭載で、リモート

カメラを用いながら構図にこだわった自然な映像を自動で撮影するAdvanced Auto Framing プラグインや顔認証と人体検出による高精度な追尾技術で被写体の予期せぬ動きをとらえて撮影するAuto Tracking プラグイン、高度な技術で多彩な映像合成が可能なVideo Mixer プラグインを紹介しします。Video Mixer はバージョンアップにより高精度なAI 顔検出技術とAI 顔認証技術を組み合わせたリアルタイムのモザイク処理「AI Effect Filter」を搭載予定で、PC にインストールして撮影すると自動で顔を認識し、モザイクなど指定したフィルター処理を施します。

5. コラボレーションゾーン

リアルとオンラインを繋ぐハイブリッド形式の会議や講義でシームレスなコミュニケーションを実現するシーリングアレイマイクロホンシステムのデモンストレーションを実施。新製品のAV プロセッサWR-AV800 とのシステム構築により、複数のリモートカメラとの連携を紹介。リアルとオンラインの空間を繋ぎ、音声と映像が連携したシーリングアレイマイクロホンシステムがストレスのないシームレスなコミュニケーションをサポート。

展示新製品・新技術については、
以下を参照



<https://news.panasonic.com/jp/>

ソニー

ブースでは、効率的なライブ制作を実現する「Networked Live (ネットワークド ライブ)」におけるシステムカメラソリューションやクラウド制作プラットフォーム「Creators' Cloud (クリエイターズ クラウド)」に加え、空間コンテンツ制作にも活用可能なVENICE エクステンションシステムMini やカメラトラッキングシステム『OCELLUS (オセラス)』を含むバーチャルプロダクション技術など、最新の映像制作機器やソリューションを展示。

映像表現の可能性を広げる最新ソリューションにより、未来のエンタテインメントを放送局やコンテンツクリエイターと共創していく。

主な展示内容

1. オンプレミス/ クラウド・ライブプロダクション「Networked Live」

「Networked Live」は、オンプレミス/ クラウドの環境を選ばず、制作機器や人などのリソースをハイブリッドに活用することで、より効率的なライブ制作を実現するソリューションです。ライブ制作向けのシステムカメラソリューションや機能拡充されたリモート制作機能を展示。

ライブ制作向けシステムカメラソリューションの強化

・マルチフォーマットポータブルカメラ『HDC-F5500V』を2025年7月に発売予定。『HDC-F5500V』は、システムカメラとしての優れた操作性と、スーパー35 mm CMOS イメージセンサーならではの印象的

なぼけ描写を実現する『HDC-F5500』の機能を踏襲しながら、本機用に新開発した光学式可変ND フィルター^{*2}を搭載したモデル。フィルター透過率の変更時に物理的な枠の映り込みが発生しないため、オンエア中でもND フィルターの透過率を自由に調整することができる。また、ゲイン・アイリス・可変ND フィルターが連動した露出制御を実現するバーチャルアイリス機能や、可変ND フィルターとレンズアイリスの連動制御による被写界深度コントロール機能も搭載^{*3}。

・カメラコントロールネットワークアダプター『CNA-2』は、ソニーのマルチカメラシステムGMCS (Global Multi Camera System) による複数サイトの統合管理に対応し、大規模なスポーツイベントなどで多数のカメラのリモート操作を可能にし



ます。また、オプションライセンス『HZC-MSUCN2』を適用することで、Web ブラウザ経由で複数カメラの同時設定変更や色調整などが可能になる。

リモート制作機能の拡充

- ・システムカメラとリモートプロダクションユニット『CBK-RPU7』および5G 対応のポータブルデータトランスミッター『PDT-FP1』を連携し、5G 経由でメディア・エッジプロセッサ『NXL-ME80』(Ver1.2 : 2025 年3 月対応済み)に映像伝送する際の機能が向上した。リターン映像を確認しながらの撮影や、タリーやリモート制御にも対応した。また、『NXL-ME80』は更なる低ビットレートでの伝送、ジッター（映像の乱れ）への耐性の強化、暗号化機能（AES256）を搭載し、より安定した映像伝送を実現する。

- ・ソニーの子会社であるNevion 社は、映像および音声の効率的なリアルタイム伝送技術や、ネットワークとリソース統合管理の最新技術を展示します。同社のソフトウェアベース IP メディアノード「Virtuoso」では、様々な形式の音声データ（AES、アナログ、MADI）を多チャンネル同時に処理・変換することが可能になります。（2025 年4 月末対応予定）また、低遅延・低ビットレートを実現するHEVC での伝送デモを行います。メディアオーケストレーションプラットフォーム「VideolPath」は、5G やクラウドシステムとの連携強化により、制作現場で高品質な映像・音声を、より効率的かつ柔軟に扱えるようになります。

- ・ライブ制作向けスイッチャーも、新たなファームウェアアップデートにより機能を向上します。『MLS-X1』は、予め設定した条件に基づき自動的にアクションが選択される「Conditional Action」機能を搭載し、制作効率を向上。また、『M2L-X』(Ver 1.1)は、クラウド環境に加え、汎用機器（COTS サーバー）等での運用が可能。

2. クラウド制作プラットフォーム「Creators' Cloud」

「Creators' Cloud」は、クラウド技術と多様なカメラ、通信技術、AI、メタデータなどを組み合わせることで、新たな映像表現や効率的な制作を実現します。法人・個人向けに様々なサービスを提供しており、個別利用も、複

数のサービス連携も可能です。ブースでは、各サービスの使い勝手をさらに向上させる機能アップデートを展示。

法人向けソリューション

- ・「Creators' Cloud」で提供するクラウドメディアストレージ「Ci Media Cloud」は、ポストプロダクションのワークフローをシンプル化および自動化するアップデートを行う。カメラとクラウドを繋げる「Creators' App」で設定することで、『FX3』『FX30』『α7S III』^{*4}から「Ci Media Cloud」へ静止画・動画を直接アップロード可能になる。これにより、撮影終了を待たずにカメラから「Ci Media Cloud」に軽量なプロキシデータを転送でき、撮影クルーや編集関係者のいる場所を問わず、レビューやコメントができるようになる。さらに、「Ci Media Cloud」は「DaVinci Resolve Studio」と直接連携できるプラグインを、2025 年2 月より提供開始しました。これにより、「Ci Media Cloud」に保存している映像素材の編集、検索、プレビュー、新しいカットの共有など様々な操作をノンリニアビデオ編集ソフトウェア（NLE）から直接できるようになります。なお、映像制作のほか多様な用途で活用される法人向け「Creators' Cloud」で提供する各種ソリューションは国内の累積契約数が100 件を突破した。（2025 年4 月4 日時点）

個人向けソリューション

- ・個人向けの「Creators' Cloud」では、動画クリエイターの撮影から制作全般をサポートする最新のクラウドサービスを展示。ワイヤレス映像モニタリング・リモートコントロールができる「Monitor & Control」では、最新のソフトウェアアップデート（Ver2.3）で電子切り出しフレーミング機能（対応機種：PXW-Z200、HXR-NX800）や、モバイル端末上のフォーカスマップの解像度向上などの機能拡充を行う。

3. 最新システムカメラや新たな映像制作用アクセサリを含む豊富なイメージング商品群

映像制作業界の多様なニーズに応える、カメラやモニター、オーディオの包括的な製品群を展示。

新たな映像コンテンツを可能にするアクセサリやCinema Line カメラの最新ソフト

ウェアアップデート

- ・デジタルシネマカメラの最上位モデルであるCineAlta カメラ『VENICE 2』のカメラヘッド延長システムVENICE エクステンションシステム Mini を展示。本機は、『VENICE 2』8K と同等の8.6 K フルサイズCMOS センサーを内蔵しながら、既存モデル^{*5}に比べ約70 %小型化^{*6}し、新開発の脱着式ケーブルを備える。本機と『VENICE 2』を複数台使用し、人の瞳孔間距離に近い自然な立体映像やVFX 背景等の空間コンテンツ制作が可能。

- ・その他、『VENICE 2』や『BURANO』、FX シリーズの最新カメラソフトウェアの体験が可能。

PTZ カメラのオートフレーミング機能の進化

- ・『BRC-AM7』は、ファームウェアアップデートVer. 2.00（2025 年7 月提供予定）によりPTZ オートフレーミングを用いたAI 自動撮影で、新たな機能を追加します。AI 自動撮影機能が大幅に進化し、被写体の視線方向に余白を設ける目線空け効果や、最大8 人までの被写体を自動認識する複数人オートフレーミング機能を搭載。また、特定の人物の顔登録や追尾範囲指定機能に加え、リモート制作用に『CNA-2』にも対応し、より柔軟な撮影が可能になります。この他、『BRC-AM7』『FR7』はリモートでのカメラ操作と撮影設定の変更が可能なソフトウェアの開発キット群「Camera Remote Toolkit」の新バージョンに、2025 年初夏に対応予定。

マスターモニターの運用効率を向上する機能強化

- ・フラッグシップモデルの31 型 4K 液晶マスターモニター『BVM-HX3110』は、ファームウェアアップデートVer2.0 により、運用効率を大幅に向上する無償の機能強化を行う。（2025 年6 月末予定）昨年9 月に発表し、2025 年夏に発売予定の17 型4K 液晶マスターモニター『BVM-HX1710』『BVM-HX1710N』にも同様の機能強化を行います。サイドバイサイド表示機能を強化し、4K 信号同士もしくは4K とHD の映像を比較することが可能になる。『BVM-HX3110』『BVM-HX1710』『BVM-HX1710N』の異なるモニター間で設定コピーが可能になり、複数台のモニター間の設定

効率を向上させる。最大輝度設定は4000 nits から400 nits までの8段階に細分化可能になる他、様々な画面表示機能の向上を含む。

この他、伝送性能と音質を強化したデジタルワイヤレスマイクロホン『DWM-30』を展示。(2024年11月12日発表済み)

4. バーチャルプロダクション

バーチャルプロダクションなどの制作を効率化する新たなカメラトラッキングシステムや、「Virtual Production Tool Set」の次期

バージョンを展示。

・新たなカメラトラッキングシステム『OCELLUS』(2025年3月19日発表済み)を展示。複数センサーにより安定したマーカーレストラッキングを屋内外で実現し、バーチャルプロダクションなどの空間コンテンツ制作を効率化する。

・「Virtual Production Tool Set」の次期バージョンを先行展示。Crystal LED撮影時の視野角による色シフトをカメラトラッキン

グデータを元にリアルタイムで補正する機能では、L字型のLEDウォール撮影時でも適切な色再現が可能になる。即時性が求められるバーチャルプロダクションにおいて、新開発のレイトレーシング高速化技術により高品質・低コストなCG背景描画を実現する。『VENICE 2』のオンスクリーンディスプレイにモアレ警告をリアルタイムに表示する機能も追加し、撮影現場で即座にモアレに気づくことができる。

朋 栄

ブースでは、機能統合型ソリューションFOR-A IMPULSE®、新12G-SDI対応ビデオスイッチャーなどを展示。

朋栄は、ブース内を機能統合型ソリューションエリアと新12G-SDI対応ビデオスイッチャーエリアに分けて最新製品/ソリューションをデモ。

クラウド/AIを活用したソリューションについてもFuture Technology Directionsエリアに参考展示した。さらに、日本でも販売を開始したスペインのAlfalite社製LEDウォールをブース内に設置し、同社の最新製品や最新の取り組みについて紹介。

また、展示会場オープン前日の4月5日には、「FOR-A CONNECT —Welcome Reception—」と題し、朋栄の最新の取り組みについて紹介するカンファレンスを実施した。

主な出展内容は以下の通り。

■ 機能統合型ソリューションエリア

機能統合型ソリューションエリアでは、Inter BEE 2024で初公開した機能統合型ライブ制作ソリューション「FOR-A IMPULSE」プラットフォームを海外初公開するほか、マルチベンダー環境の共有リソースを効率良くリソースシェアする「Hi-RDS®(階層型RDS)」をより手軽に扱えるようにする管理ソフトウェアを海外初披露した。

● 機能統合型ライブ制作ソリューション『FOR-A IMPULSE』プラットフォーム(新製品)

これまで朋栄が提供してきた各種映像機器の機能をソフトウェア化し、必要機能を自由に構造化した「パイプライン」として利用できる機能統合型ライブ制作ソリューションFOR-A IMPULSEのプラットフォームを海外初披露。海外で展開するOdyssey社ビデオサーバーInsight、ClassX社

3DCGグラフィックスClassXと連携したスタジオサブ機能をデモ。

● NMOS RDSソフトウェア『SOM-20ORDS』

● RDSフィルタリングAPIソフトウェア『SOM-20RDS Plus』

● RDSフィルタリングAPI管理ソフトウェア『SOM-20ORDS MGR』(新製品)

昨年の2024 NAB ShowでPRODUCT of the YEARを獲得した「Hi-RDS(階層型RDS)」は、マルチベンダーにより構築されたアイランドをまたぐMoIP環境の機器リソースシェアを実現。共有NMOSデバイスの機器リソースシェアを、よりユーザーフレンドリーに管理/運用することができるRDSフィルタリングAPI管理ソフトウェア「SOM-20ORDS MGR」を海外初出展。

● マルチチャンネルプロセッサ『FA-1616』(JPEG XS 新対応)

ソフトウェアデファインド製品FA-1616がバージョンアップし、新たにJPEG XSの変換に対応した。このほか、ClassX社によるソフトウェアベーススイッチャーFOR-A MixBoardを紹介。

■ 新12G-SDI対応ビデオスイッチャーエリア
12G-SDI、NDI®、Dante オーディオ対応の新ビデオスイッチャーHVS-Q12を初公開。また、HVS-Q12同様にNDIとDanteオーディオに対応したポータブルビデオスイッチャーHVS-190シリーズ、ClassXグラフィックス、Insightビデオサーバー、低遅延エンコード/デコードのエッジ製品SOAR-A Edgeを紹介した。

● 12G-SDI対応ビデオスイッチャー『HVS-Q12』(新製品)

60入力30出力(HDMI 2システムを含む)まで拡張可能なビデオスイッチャー。イベントメモリーやシーケンス、マクロ、ユーザー



ボタン、外部制御用GPIなど、これまでのHANABIシリーズで定評ある機能を継承しつつ、HDR/SDR変換やアップ/ダウンコンバーター、内蔵マルチビューワーなどの機能拡張にも対応します。さらに、Web-GUIは、これまでのHVSシリーズを継承しながら操作性を改善するとともにデザインを刷新。より直感的な操作が可能になった。

● ポータブルビデオスイッチャー『HVS-190シリーズ』(Dante 新対応)

放送局内/局外を問わず、イベント映像送出や中継まで幅広いシーンで活用いただいているHVS-190シリーズは、新たにDanteオーディオ入出力カードを追加しました。NDI入出力カードとの併用で、ポータブルビデオスイッチャー運用の幅を広げることが可能になります。

■ Future Technology Directionsエリア

今後の取り組みを紹介するFuture Technology Directionエリアでは、FOR-A IMPULSEのクラウド対応版を紹介するとともに、近日発売予定のAIソリューション『AiDi+ (エイディ プラス)』を初出展。

● AIソリューション『AiDi+ (エイディ プラス)』(新製品)

半世紀以上にわたる膨大なアーカイブ映像・音声など、さまざまな学習データをもとに高精度な解析・認識を行い、スポーツ中継の映像制作をサポート。インターネット不要のオンデバイスAI技術を用いたリアルタイム超

高速処理により、顔認識、距離表示、速度表示、選手追従、ティッシュ軌道表示などの機能を提供。制作現場で培われた直感的な操作性と、番組制作のCG技術を融合することで、低遅延でスムーズな映像体験、没入感のある映像表現を実現する。

このほか、スペインのAlfalite社製LEDディスプレイパネルModularpix Proを用いてLEDウォールを構築し、朋栄の最新の取り組みを紹介するプレゼンテーションを実施します。さらに、壁面に直接設置可能なLEDディスプレイパネルAlfalite UHD

FinepixによるLEDスクリーンをブース正面のレセプションで展示した。

内容の続きは▼

https://www.for-a.co.jp/news_events/news_releases_5406.html



リーダー電子

「Your Gateway to the Future of Video Technology」(映像技術の未来への扉)をテーマとして掲げ、ハイブリッドSDI/IP、NDIチェッカー、クラウドモニタリングなど、最新の映像技術を紹介。

またLeader製品とPhabrix製品の技術統合による新製品「LPX500」を新しい製品ブランド「LeaderPhabrix」として出展します。両ブランドの技術統合による、革新的で将来性のある製品を紹介し、映像技術の未来に向けた取り組みを示した。

■波形モニターLPX500

LPX500は、IPとSDIの両方に対応したコンパクトな波形モニター。

省スペース設計: 8インチのタッチスクリーンを備えたコンパクトな奥行き設計で、中継車などの限られたスペースに最適。

多様な入力: 4系統の独立した入力インターフェースで、4K/12G-SDIとIPの両方に対応。SDIとIPの同時表示、異なるフォーマット(2K/4K)の同時表示も可能。

拡張性: オプションの外部モニター(8インチタッチスクリーン)を接続可能。

リモートアクセス: 内蔵のnoVNCで、ネットワーク経由のリモートアクセスに対応。LPX500は中継車、スタジオ、ポストプロダクションなど、あらゆる映像制作現場で活躍します。

■波形モニターLV5600W/ ラスタライザーLV7600W

LV5600Wは、SDIとIPの両方に対応した高性能なハイブリッド波形モニター。

多様な信号に対応: 12G/6G/3G/HD/SD-SDI信号と25G/10GbpsのIP信号に対応。

リモート機能: WebRTC技術により、リアルタイム表示とフルコントロールを遠隔から実現。

高度な測定・品質管理: 波形、ベクトル、ピクチャー、アイパターン表示など、多彩な表示機能で映像信号を詳細に分析可能。

エラー状況やシステム安定性をログやチャートで確認。

柔軟な機能拡張: 豊富なオプションから必要な機能を選択可能。



LV5600Wは、放送局や映像制作現場における高度な映像信号の測定・管理に貢献します。

■シンクジェネレーターLT4670

LT4670は、放送・映像システムにおける高精度な同期信号発生器です。

多機能な同期信号生成: PTP、GNSS、アナログビデオ同期信号に同期。

(4K/HD)IP、4K 12G、(3G/HD/SD)SDI、アナログ同期信号、AES/EBU、オーディオワードクロック、LTCなど多彩な出力。

高信頼性: 二重化電源による冗長運転。ホットスワップ対応の電源・ファンユニット。

柔軟なシステム構築:

PTP グランドマスター機能。

豊富なオプションによる様々なシステムへの対応しており、放送局や映像制作スタジオなど、高度な同期管理が求められる環境での使用に適している。

■PHABRIX QxP

QxPは、世界初の4K 25G-IP/12G-SDIハイブリッドポータブル波形モニターであり、バッテリー駆動が可能。

IPとSDIの両方に対応するハイブリッド仕様。ポータブルで現場での使用に最適。高度な分析・測定機能。多様なフォーマットとHDR/WCGに対応。QxPは、放送、制作、配信などのプロフェッショナルな現場において、高品質な映像・音声の監視・測定を強力にサポートします。

■NDI®Checker

NDI®チェッカーは、ネットワーク上のNDI信号を簡単に監視できるPC用ソフトウェア。

NDI信号の監視: ネットワーク上のNDI信号源のフォーマット、受信フレーム数、ビットレートを確認。イベントログの記録とダウンロードが可能。



システム状況の把握: 準備中や本番中のシステム状況を把握。

NDIの利便性向上: NDIをより簡単かつ安心して使用することが可能。

■Cloud Live Solution (参考出品)

Cloud Live Solutionは、放送局の放送配信センターやマスターコントロールにおけるライブ信号監視を目的としたソリューションです。

特徴: ブラウザからのリモートコントロール AWS CDI、NDI、SRT のサポート。画像表示、波形表示、ベクトル表示。Audio Bar表示。ANC分析 (CDI)、SCTE104 分析表示、CC708 分析表示。PID表示、TC表示、ANCサマリー表示。遅延測定、フローテーブル表示。エラー検出 (黒、フリーズ)、イベントログ、カスタムレイアウト。

機能: クラウド上で圧縮・非圧縮のビデオ信号を監視・計測。非圧縮CDI信号、圧縮NDI信号、SRT信号の画像や波形をブラウザ上で監視。遅延などの計測。

お問い合わせ ▶ 本社営業部
TEL.045-541-2122
E-mail : sales@leader.co.jp

池上通信機

ブースでは、放送機器全ラインナップを展示。新世代のUNICAM-XE カメラ (UHK-X700/-X600/-X750/-X650、HDK-X500)、現行のUNICAM-HD シリーズ (HDK-99、HDK-73)、そして新登場のコンパクトボックス型カメラ UHL-X40 と UHL-43、そしてモニターシリーズ (HQLM-3120W/-1720WR、HLM-2460WA/-1860WR/-960WR) が含まれる。

UNICAM-XE カメラシリーズに加え、新製品の IPX-100 は池上ブースの目玉製品。IPX-100 は、従来の放送と最新の ST2110 インフラのより広い世界をつなぐ、コンパクトで魅力的な価格の製品である。現場のカメラマンにとっての従来の放送ワークフローと、ユビキタスなデータ共有という IT のメリットを融合させることが可能。

IPX-100 は、従来の 19 インチラックに収納できるコンパクトなユニットであるだけでなく、現場でのモバイルユニットとしても使用できます。NAB では、池上は IPX-100 をお客様の特定のニーズに合わせてカスタマイズするためのソフトウェアライセンスを多数展示した。(例: JPEG-XS 圧縮、SDI ゲートウェイ機能、12G トランクチャンネル、UHD アップスケーリングオプション、3D LUT による HD 出力、SNMP サポートなど)。

■IP エクステンション ユニット IPX-100(新製品)

「IPX-100」は UNICAM XE シリーズおよび Unicam HD シリーズ用のベースステーションの新たなラインアップとして SMPTE ST2110 に準拠した Media over IP (MoIP) に特化した IP エクステンションユニット。

2U ハーフラックサイズの小型化・省電力化を実現しており、カメラに光複合カメラケーブルを接続することが可能で、双方向光伝送とカメラ用電力送電に対応している。スタジオ用途や中継用途での IP リモートプロダクションを実現し、運用の効率化が図れる。

また、オプションでライセンス方式のソフトウェアアップグレードにより、IP ゲートウェイ機能や JPEG XS に対応可能なため、さまざまなニーズに柔軟に対応でき、シンプルな構成で IP システムへの拡張が望める。

■4K/HD スタジオカメラシステム UHK-X750

■4K/HD ポータブルカメラシステム UHK-X700

「UHK-X750/UHK-X700」は、新開発グローバルシャッター対応 2/3 型 CMOS センサーを採用し、ローリングシャッター方式と比較して歪みやフラッシュバンドのない自然で高精細な 4K 映像を再現します。また、「UHK-X750」は、スタジオタイプの筐体ならではの利点である、光軸に近い位置でビューファインダーを配置できるため、取り回しに優れています。HLG (Hybrid Log Gamma) 方式の HDR および広色域 ITU-R BT.2020 に準拠しているため、照度差の激しい屋外やイベント撮影などでも自然な映像表現が可能です。VE 側のオペレーションパネルからバックフォーカスの調整が可能な「リモートバックフォーカス機能」や高倍率レンズでズーム撮影時に周辺の光量落ちを補正する「F ドロップ補正機能」など映像制作における高い運用性を誇ります。カメラヘッドから直接、12G-SDI の出力が可能のためカメラ単体での多彩な運用スタイルに対応します。

■4K アップグレードダブルHD ポータブルカメラシステム UHK-X600

「UHK-X600」は、新開発グローバルシャッター対応 2/3 型 CMOS センサーを採用し、ローリングシャッター歪みやフラッシュバンド現象を発生させずに高画質映像を再現します。4K ライセンスキーを追加することでネイティブ 4K 出力にも対応可能となるため、将来の 4K 化に備えた HD カメラとしての導入にも最適です。オプションにより、HD で最大 4 倍速の HFR (ハイレームレート) 撮影が可能です。中継制作や競技場等で動きの速い被写体を撮影する際に効果を発揮します。HLG (Hybrid Log Gamma) 方式の HDR および広色域 ITU-R BT.2020 に準拠しているため、自然で豊かな映像表現が可能です。対応レンズ使用時には、「リモートバックフォーカス機能」や「F ドロップ補正機能」により、4K/HD における最適なカメラ映



像の調整が行えます。

■HD ポータブルカメラシステム HDK-X500

高性能 2/3 型 CMOS センサーを搭載したマルチフォーマット対応 HD ポータブルカメラシステム。F11 の高感度と S/N62dB を誇り低ノイズでクリアな映像を実現する。3G フォーマット、16 軸色補正による高度な色調整など、幅広い用途に対応する機能を搭載した。HLG (Hybrid Log Gamma) ガンマカーブによる HDR 機能を搭載。暗部から明部まで表現可能な範囲を拡大した広ダイナミックレンジ映像で見た目に近い階調表現を実現した。

また、新開発の幅 82mm の省スペース化を実現したスリムタイプのオペレーションコントロールパネル「OCP-500」と組み合わせ運用が可能。

■ベースステーション BSX-100

「UHK-X750」、「UHK-X700」、「UHK-X650」、「UHK-X600」に接続可能な 3U の小型・軽量化を実現したハーフラックサイズのコンパクトな設計により、中継車や限られたスペースに設置可能なベースステーションです。オプションにより、「4K で最大 2 倍速、HD では最大 8 倍速の HFR (ハイレームレート) 機能」を搭載可能です。4K/HD サイマル運用に対応するほか、SMPTE ST2110 準拠、NMOS IS-04、05 に対応した MoIP インターフェースを搭載できるため、IP 化へも柔軟に対応します。HD カメラ Unicam HD シリーズの「HDK-73」の他、「HDK-97A」、「HDK-79GX」、「HDK-55」にも対応しており、HD から 4K 運用へのスムーズな移行をサポートします。

その他の製品及び詳細は ▶
<https://www.ikegami.co.jp>

